

郷土はんのう

第42号

旧本郷浄水場 ポンプ室

目次

- ◆会長をお受けして.....清水澄一 2
- ◆飯能の古い話を語る会 郷土史研究会会員が見た昭和.....清水澄一、浅見賢治 2
- ◆埼玉県下で何番目？—飯能町の上水道施設—.....波田尚大 6
- ◆表紙の写真について.....関根貴志 8

会長をお受けして

清水 澄一

このたび、多くの先輩の方々が豊富な知識を活かして調査研究をされ、築き上げてきた飯能郷土史研究会の会長をお受けし重責を感じております。

この会を会員の皆様とともに発展させたいと思います。会員の皆様にはご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

飯能郷土史研究会は昭和四十八年(1973)に設立され、今年(令和五年)で五十周年を迎えます。

会誌「郷土はんのう」も昭和五十三年に会の研究発表誌として創刊号を発行し、以降毎年発行してきました。令和二年度はコロナ禍で活動を制限され休刊しましたが、翌令和三年度は役員の皆様と博物館館長のご協力により、第四十一号を発行することができました。

これからの飯能郷土史研究会は、飯能地域に多く残されている古い歴史・文化に関する情報を、会員の皆様とともに調査収集し、また記録・保存し、例会・講演会等で、会員の皆様はもちろん、会員以外

の多くの方々にも伝承していききたいと思えます。

そのためには、この会の趣旨に賛同する方々をお誘いし、また募集を行い、会員を増やしていきたいと思えます。

飯能の古い話を語る会

郷土史研究会会員が見た昭和

清水 澄一
浅見 賢治

本稿は令和4年12月10日、令和5年2月18日に行われた例会「飯能の古い話を語る会」郷土史研究会会員が見た昭和」の内容の一部を抜粋・編集して掲載するものです(構成 関根)。

当日は高澤等副会長を進行役とし、清水澄一会長・浅見賢治理事を主な語り手として、様々な内容について話し合いました。



2月例会の様子

上水道の話

高澤 飯能の上下水道についてお話をちょっと伺いたいなと思えます。

浅見 水道はあの、これ私はすごいと思うんですよ。深谷と秩父と飯能は埼玉県で三番目にできたわけですよ。飯能の人たちはそういう時代の流れによってね、その水道を作るといってね、意気込みを持つという、動かなければ、そんな埼玉県で三番目にできるわけはないわけですからね。

そういうその連帯なんかについてうね、意気込みがすごかったな、という風につくづく思います。

清水 昭和3年頃ですか。3年頃だんだん世帯数も多くなつて、井戸が枯れちゃったんですよね。それで、井戸水がなくて、あの高麗横丁にあった井上酒造なんかもあちこちの井戸から汲んで担いで水を求めてたのと、それと、いちばん困ってたのが街の中の糸を紡いでいた工場ですね。あれが繭を茹でることができなくなっていたわけですね。景気が当時は生糸もよかったですし、材木屋さんも良かったし、それで、水道を引こうという

ことでいたんですけど、なんせ飯能は井戸が少ないんですよ。で、掘ってもなかなか出ない。

それで、いま観音寺の前につつと孫の孫、ひ孫みたいのがあるんですけど、佐渡屋っていう家があったんです。佐渡屋っていうのは、佐渡の金山を掘ってた人。その当時の久下分村と飯能村で金を出して、人足に来てもらったんですね。それで、かなりその佐渡屋っていう家が佐渡から職人を連れてきて飯能の井戸を掘ったんだけど、なかなか水が出ず、仕事を取れなかったと。

それでじゃあ山の中に掘ったら出るのかっていうことで、試しに掘ったのが、今現在天覧山の中段に井戸があると思うんですけど、あれはあの井戸を掘って、それでその後、明治天皇が飯能へ来るっていうことで、さらにその馬の水を用意しなければならなかったことと、天皇陛下が乗ってきた馬ですか、その井戸から飲んだ水が冷たくて、それを飲んだという風な話もあるんですよ。

ですから、町中自体に井戸がかなり無かったのが、昭和5年ですか、水道山を作るということで、



現在の井戸跡
コンクリートで蓋をされている。

県から名栗川の取水の許可が出た
んですね。

それで、かなり威勢がついて、
今でいう水道山へ送水して、当時
は町中だけなら十分高さからして、
あの自然流下で水が間に合ったと
いうことなんです。

その後、川寺だとか双柳だとか
(配水範囲が) 広くなったので、
水圧が低いということ、かなり
苦労したという話ですね。ですが
ら、さつき浅見さんが言われたよ
うに、水道の事業っていうのは埼
玉県でも三番目ぐらいなんで、飯
能としてはかなり画期的な事業じ
やなかったかと思うんですよね。
まあ、いま現在その材木屋が廃
れたとか、糸屋がダメになったと
かって言ったって、結局最後に残
ったのは水道管だけが残ってるわ

けですね。その辺で、いま銅像に
なってる双木さんですか、あの方
がどれだけ苦労したかっていうの
は、あの飯能の旧市内の人はわか
っている。

私は昭和12年に生まれたんで
すけれども、それで物を覚えてい
る段階では、水道は、水は蛇口を
ひねればいいということだったん
です。ところが街中でも水道料金
を払うのが大変なんで、水道を引
いてない家かなり多かったんで
すよね。そうするとバケツ持って
もらいに来るんです。だから、い
ろんな洗濯だとか洗い物なんかは



双木町長の銅像

上水道建設に尽力した双木利一氏(明治11
年3月2日生、昭和14年8月8日没)を称え
ようと、山下虎吉氏を発起人代表として旧原町
地区が胸像建設を進め、清水多嘉示氏(武蔵野
美術大学教授、文化功労者)に製作を依頼した。
土地は荒井栄氏(荒井歯科醫院)の提供を受け
た。昭和26年11月23日の除幕式には花火が
打ち上げられ、二百数十名が集まった。長男で
当主である双木利夫氏が謝辞を述べ、お孫さん
が除幕の綱を引いたという。

井戸水ですけど、飲料水について
は、水道を引いてある家に水をも
らいに歩いたというのがちよっと
あります。

関根 双木町長の胸像が戦中に
もあって、供出されたという話が
あったそうですが。

清水 水道山の番人をしていた
初野さんっていう人が居て。おそ
らく初野さんの住んでた処の庭に
あったのが古い供出した像だと思
うんです。かなり小さいものだっ
たという風に聞いてますけどもね。

関根 昔の文化新聞を読むと、
赤痢とかがよく起きていたらしく
て、それは水道の改善と一緒にだ
んだん起きなくなっていくたとい
う感じなんでしょうか。

清水 それは下水を流したのが
井戸水に入って、それを飲んでた
関係ですね。当時まだ町中の下水
っていうのは、各家庭でかなり、
吸い込み井戸を掘って流してたわ
けなの、市内ではね。井戸よりは
本来なら深く掘ればいいものを、
井戸と同じぐらいになっちゃうん
ですよ、長い間に。山の方だっ
たらいいけど、街中でそういうの
を何軒もやったら、捨てた水が井
戸へ浸透して、それを今度また飲
んでるということで発生したとい
うことなんです。それで飲み水の方
が改善されて治っていった、病氣



水天宮 鳥居奉納者御芳名
「昭和九年戌年十二月五日戌日之建」
とあり、各町の衛生組合長の名前が
見える。赤痢鎮静祈願という。

が少なくなっただっていいことじゃないですかね。

赤痢が多くて、それでやむを得ず避病院を作ったりしたわけですね。それで避病院が天覧山の中段の下にあったのが、古くなって、今の武蔵ヶ丘のゴルフ場の入口の左側の窪地のところに避病院の建物が3棟くらい建ってたんですよ。

高澤 今、避病院がお話に出ましたけれども、飯能市街の中でも天覧山裏、中山の手前ですか。あの辺にやはり火葬場とか、ちょっと古い言い方で言えば、穢れに関するような施設が多いイメージがあるんですけども、そういうのはやはり何か考えて、そっち方向に作ったと。

清水 飯能の町から北側の外れだっというところでやってるんですね。ですから火葬場も村境に作っている。

高澤 ここは神社が作られたらしいんですよ。今はなくなってますよ。

清水 その神社のところが昔の、今の火葬場の前の火葬場の、その前の火葬場だよね。台の滝不動の上のそこなんですよ。あの

山の中段を削って、昔ですから薪を積んで、井桁に組んで、上乘つけて、それで火つけて。それで火が消えるまで待ってたっていい。

お菓子の話

高澤 当時の子供たちはどんなお菓子を食べていたっていうのを、ちょっと聞きたいなと思うんですけど。

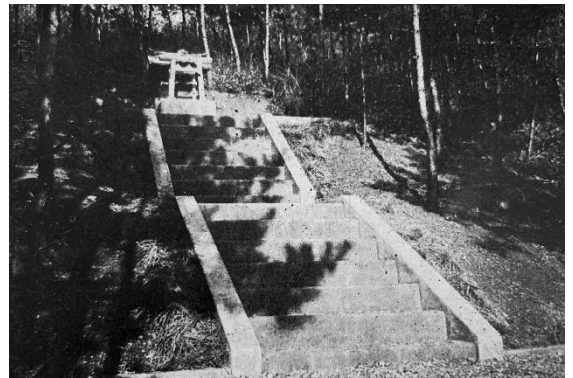
清水 子供は——物が無い時代ですから、なかなか買って食べるようなことはなかったです。和菓子屋の菓子ってのは、だいたいほとんど進物用だったですね。

高澤 確か、榮太樓の創業者も飯能の細田っていう人だっという聞いてますけども。

浅見 そうそう榮太樓はね、飯能出身で広渡寺に墓があるんですけど、俺は実家の墓があるから前通ってこう拜んでるんだけど、この榮太樓が飯能出身だっということも、私はすごいことだと思えますよ。

玩具の話

高澤 子供の頃に遊んだおもちゃとかそういうものについて思い



胞衣姫神社

(『衛生的展望下の飯能』口絵より)

上記で話に出た神社は胞衣姫(えなひめ)神社という。

昭和11年に刊行された『衛生的展望下の飯能』(飯能町衛生組合)によれば、「胞衣産穢物焼却場」は「衛生的見解の上からは勿論の事、迷信打破の点から見ても、極めて重要な施設であるので」建設したが、その「焼却爐」に「附属して、其灰末を埋設する地に胞衣神社を建立した」とある。

迷信とは胞衣を家の戸口に埋める習慣を指すと思われるが、迷信打破と言いつつもまだこのような施設を必要とする時代だったというところか(他地域に類似の例があるのかは未調査)。

所在地は今の武蔵ヶ丘車両基地と広域飯能斎場の中間になるが、現在では山肌が大きく削られ、かつての痕跡はない。

出とかありますか。

浅見 とにかくね。自分で作ってたんですよ。竹馬にしろ竹トンボにしろ水鉄砲にしろね。いわゆる篠(し)でね。買うものじゃないんだよ。自分で作った方がいいよ。今なんか作る人いないからね。やはりね、手で作ることをしないといけないですよ、子供は。

戦時中の話

(注) 飯能第一小学校の写真を見ながら)

浅見 軍隊がね、昭和19年に入ってきたんですよ。こっちの校舎です(注) 西校舎)。全くね、そういう時代だったんです。軍隊が小学校に進駐して。

清水 一ヶ月に一回、軍隊が、ずっと秩父の方だとか、名栗の方へ演習みたいな形でいくんですね。そして、帰ってくると、どっから徴発したか買って来たんだか持ってきたんだか知らないけど、赤い牛を持ってきて自分たちで捌いて食べるんですよ。それで、小学校の前の近所にもそんなに子供いなかったんで、私たちはおっかない面もあるし、またもう珍しい形で行って、それで今このところに

炊事場的なのがこれ、ここですね。ここにでかい水道があったんですね。これが入り口で、このとこで解体するわけですね。そうすると、おっかなびっくり見ると、最後に肉がもらえるんですよ。

それとか、終戦になった20年の時は、中に缶詰類がかなりあったんです。それをもらいに来いって言って、おっかなびっくり行くわけですけれども、そのうち今度はもう大人が行くようになって、中の人たちがみんなもらいに来て、それで缶詰類でなく、軍で使ってた毛布とか、そういうのも結構もらって戦後生き延びたんですよ。

浅見 私の小学校の終戦の前の頃の行動はね。まず、最敬礼してやっついていくでしょ。そうするとね、行くとね、飯能駅行って言うんですよね。飯能駅に行って、兵隊さんが出征するのを、旗もろくに無かったんだけど、いってらっしゃいって兵隊送りをするわけですよ。で、今度は帰ってくるでしょ。帰ってきたら、今度は親戚とか知り合いとか、近所の人の兵隊

さんに「兵隊さん元気ですか、僕らも元気で頑張ってます」って手紙を書くわけですよ。女の子は千人針です。そういう時代です。で、空襲警報で防空頭巾を被って机の下の潜る練習。

欲しがりません、勝つまではで、飯能も東京の集団疎開の人が随分いた時代です。食料は何もなくて、サツマイモの葉っぱまで食うし。サツマイモの種芋っていうのは、落ち葉の中にサツマを入れて、温度をあげて芽が出るわけですね。その芽の出したそのものも食ったわけ、それで、我々はね、食料難でね、勝手に土手や何かに種まいたこともあるんです。この運動場のところは畑になってたわけですよ。私なんか、八幡様の神社まで畑にしたわけですよ。

サーカスの話

浅見 それから昔は観音寺に柿沼サーカス、早川サーカス、シバタサーカス、いくつもサーカスが来るわけですね。それが昭和19年か20年か、戦争でいっとうなるかわかんないっていうことで、観音寺でライオン、トラを殺した、殺されちゃったっていうのが、また

私は命を取ったっていうことに對して非常に……

清水 象だけはね、観音寺で餌をくれないで、ずっと餓死させようと思っただけれどどうしても死ななかつた。それで豊岡の士官学校へ持って行って手榴弾で殺したっていうんだね。当時もう鉄砲の弾が無かつたらしいんですよ。手榴弾ならあつて、それで穴を掘って、象をその脇に置いて手榴弾で殺したと。それで今言われたライオンや虎は、諏訪沢の、観音寺さんのお墓の脇へ埋めて。

木下サーカスは、最近も来るみたいだけどもね。動物の処分をしてくれたということで、前はよくお盆になると来てたんですよ。施餓鬼の15日の前に来てたのかな。

参考資料

- ・加藤寛之『飯能現代ご当地資料集』第4版、私家版（2023年2月17日時点デジタルデータ）
- ・飯能町衛生組合『衛生的展望下の飯能』（昭和11年）
- ・文化新聞 昭和27年10月25日号、26日号、昭和56年5月17日号、昭和61年3月16日号

観音寺では十月のお不動様の縁日に毎年サーカスの興業が行われていた。『ふるさとの思い出写真集』（赤田喜美男編）には明治末期の写真が掲載されている。

また『文化新聞』昭和27年10月25日および26日号に、話に出た「戦時猛獣処分」について触れた記事があり、
「飯能観音不動明王の例祭は今年も盛大とあつて此の二十五日から五日間猛獣サーカスが開園されることになっている。」

此のサーカス団一行五十名は戦時中空襲の激化に伴い軍命令で已むなく同境内でライオン、ヒョウの銃殺を餘儀なくされ、其の想い出の飯能町え九年振りの迫善供養興業の爲御目見得した」
「到着の足で幹部団員を率いて感慨の墓参を済ませた」とある。

飯能不動人氣の焦点
サーカスの王様 國際猛獸大サーカス開演中

○美とスリと笑いの豪華プログラム

内容豪華とも日本一の觀感娛樂の殿堂初日からお子様の人気を呼ぶお遊（三吉君）の珍藝猛獸使の空中飛行
期日～10月29日迄五日間 開演時間～毎日午前10時より晝夜通し開演、御招待券及割引券利用の方は28日はこみあいますから成可く他日にお願いたします。

場所 飯能観音寺境内天幕劇場

昭和27年公演時の広告
(文化新聞 昭和27年10月26日号より)

埼玉県下で何番目？

―飯能町の上水道施設―

波田 尚大

執筆時点で飯能市の「まちづくりの総合的な方針」を示しているのが「第5次飯能市総合振興計画後期基本計画（令和4年度～令和7年度）」であり、その中では「上水道の安全維持と整備」を推進するための個別計画として、平成28（2016）年3月に発行された「飯能市水道ビジョン」が紹介されている。この計画の「水道事業の沿革」の項目をみると、飯能市の水道の起源について、次のように解説されている。

「本市の水道は、昭和5（1930）年に創設され、昭和7（1932）年11月に埼玉県下3番目の上水道施設として供用を開始しました。」

同様の記述は昭和45（1970）年に飯能市水道課が作成・発行した『飯能市の水道』にも記載があり、

「昭和6（1931）年1月20日付で当時の内務省より許可され埼玉県下三番目の上水道施設が誕生するこ

ととなった。」

と解説されている。

両者ともに細かなニュアンスが異なるものの、飯能町の上水道施設が埼玉県下3番目に成立したものであるということが共通しているが、埼玉県が平成2（1990）年に発行した『埼玉県行政史』第2巻によると、

「本県で最初に近代式水道が敷設されたのは、秩父町（現・市）で、大正五年ごろから町会で調査・計画を進めてきたが、大正十年十月、内務大臣に計画給水一万五、〇〇〇人の水道敷設を申請、同十一年十月認可され、翌十二年四月工費三万七千七百七十五円で完成した。」

「この秩父町の水道事業が口火となって、昭和四年十一月に深谷町（現・市）、六年一月に児玉町、翌七年五月に飯能町（現・市）、十二年三月に所沢町（現・市）が相次いで県費補助を受け、水道を敷設した。」

とあり、飯能町の上水道施設は埼玉県下4番目のものである旨が記載されている。

本稿では、飯能町の上水道施設が埼玉県下何番目のものであるのかの記述を整理し、確認することを目的とする。そのため、大正期には申請が提出され、承認、給水を開始している県下一番目に敷設された上水道施設である秩父町を除いた深谷町、児玉町、飯能町の水道敷設にかかる年月日等を以下の表にまとめた。なお、昭和9（1934）年に浦和市、大宮町、与野町、三橋村、六辻村の連名で設立された「埼玉県南水道組合」による上水道施設、所沢町の上水道施設は工事の着工や給水開始時期が飯能町よりも4年程度遅れるので、比較の対象外とした。

県及び国へ上水道施設の「敷設認可申請を提出」したのは、昭和2（1927）年4月30日に深谷町、昭和2（1927）年7月25日に児玉町、昭和4（1929）年1月25日に飯能町が提出している。

その「敷設認可申請が認可」されたのは、深谷町が昭和3（1928）年3月31日、児玉町が昭和3（1928）年3月16日、飯能町が昭和5（1930）年7月3日である。

表 深谷町・児玉町・飯能町 水道敷設年月日等 一覧

町名	敷設認可申請を提出	敷設認可申請が認可	工事の着工	工事の完了・竣工(功)式	給水開始
深谷	2年4月30日 (1)	3年3月31日 (1)	3年6月9日 (1)	4年11月17日(竣工式) (1)	4年7月1日 (1)
児玉	2年7月25日 (2)	3年3月16日 (3)	3年4月18日(起工式) (4)	7年2月 (4)	6年1月 (4)
飯能	4年1月25日 (5)	5年7月3日 (5)	6年8月1日 (5)	7年5月 (完了) (6) 7年11月5日(竣工式) (5)	7年12月 (7)

(1) 『深谷市史』1174頁
 (2) 『児玉町の近代化遺産』71頁
 (3) 前掲書73頁
 (4) 前掲書5頁
 (5) 『飯能町上水道竣工記念帖』序言
 (6) 『飯能市史』通史編623頁
 (7) 前掲書625頁

それぞれの「工事の着工」は、深谷町が昭和3(1928)年6月9日に、児玉町が昭和3(1928)年4月18日に起工式を実施し、飯能町が昭和6(1931)年8月1日に工事を開始している。飯能町は起工式を行わなかったようだが、地鎮祭を同年の7月23日に、工事の工事を同年の10月6日に開催している。

何をもって「工事の完了」とするかは判断し難いが、児玉町では「水道事業の完成」が昭和7(1932)年2月、飯能町では「工事は全て完了し」たのが昭和7(1932)年5月と記されている。深谷町では昭和4(1929)年11月17日に、飯能町では昭和7(1932)年11月5日に「竣工(功式)」が行われている。「給水開始」は工事の完了よりも前倒しで実施されている場合があり、深谷町は昭和4(1929)年7月1日、児玉町は昭和6(1931)年1月、飯能町は昭和7(1932)年12月である。

以上をまとめると、飯能町は上水道施設の「敷設認可申請を提出」と「敷設認可申請が認可」された時期、「工事の着工」、「工事の完了」、そして「給水開始」について、埼玉県下で4番目であったことがわ

かる。

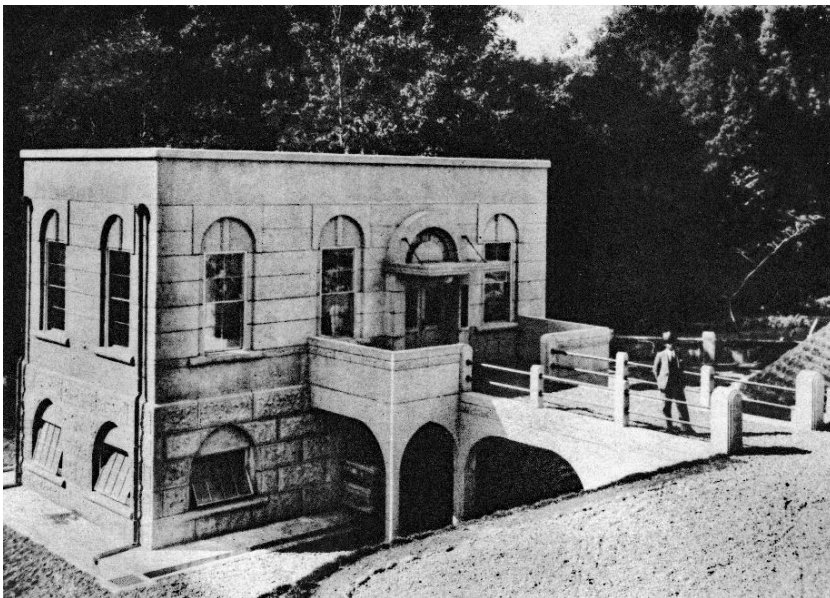
ただし、深谷町と児玉町のように「敷設認可申請を提出」は深谷町が早い、「敷設認可申請が認可」されたのは児玉町が早いというように、設定した項目によっては順位が異なったり、また、『飯能町上水道竣工記念帖』や『飯能市水道』、『飯能市史』通史編、「飯能市水道ビジョン」など様々な資料を用いたが、それぞれが何を根拠としているか史料批判の余地があるため、飯能町の上水道施設が上記で設定していない何らかの項目において、埼玉県下3番目である可能性も存在する。

【参考文献】

- ・飯能町役場『飯能町上水道竣工記念帖』昭和7(1932)年11月
- ・監修・執筆 山口平八(編纂) 深谷市史編纂会『深谷市史』 深谷市役所 昭和44(1969)年12月
- ・飯能市水道課『飯能市の水道』昭和45(1970)年版
- ・編集 飯能市史編集委員会『飯能市史』通史編 飯能市 昭和63(1988)年2月
- ・編集・発行 埼玉県『埼玉県行政史』第2巻 平成2(1990)年3月
- ・児玉町史編さん委員会『児玉町史資料

調査報告 児玉町の近代化遺産』第18集 児玉町教育委員会 平成15(2003)年3月28日

- ・飯能市「飯能市水道ビジョン」平成28(2016)年3月
https://www.city.hanno.lg.jp/soshik/ikarasagasu/jogesuidobu/suidogyo_muka/1778.html
(令和5(2023)年2月19日閲覧)
- ・新秩父市誌編さん委員会 編集『新秩



本郷浄水場 建設当時のポンプ室
(『飯能町上水道竣工記念帖』より)

父市誌』埼玉県秩父市 令和2(2020)年3月

- ・企画総務部企画課 編集「第5次飯能市総合振興計画 後期基本計画(令和4年度〜令和7年度)」 埼玉県飯能市 令和4(2022)年4月
<https://www.city.hanno.lg.jp/soshik/ikarasagasu/kikakusomubu/kikaku/105.html>
(令和5(2023)年2月19日閲覧)

表紙の写真について

関根 貴志

いま水道山と呼ばれている辺り
はもともと本郷の葛田さんという
方が個人で所有していた山で、白
山神社の小さい祠があり、昔はお
祭りもしていたそうです。そのた
め地域の人は「白山やま」（はくさ
んやま）と呼んでいました。今も
駐車場に小社殿が残っています。
浄水場も初めは「白山浄水場」と
呼ばれていたようです。

有形文化財などの指定を受けた
著名なポンプ室は京都の旧御所水
道や福岡の遠賀川水源など日本
各地にあります。この旧本郷浄
水場のポンプ室もそれらに劣るこ
との無い近代化遺産であり、今後
も保存されていくことを願ってや
みません。

参考資料

・加藤寛之『飯能現代ご当地資料集
第4版 私家版』



現在の白山神社

◎令和四年度事業報告

▽総会

・五月二十八日(土)

講演会

「歴史が好きだから調べる」

飯能郷土史研究会の役割」

講師 尾崎 泰弘氏

(飯能市立博物館館長)

▽例会

・七月九日(土)

「飯能高校すみっこ図書館の見学」

講師 湯川 康宏氏

(飯能高校司書)

・九月十七日(土)

「江戸祭囃子の誕生」

講師 和田 強氏

(当会理事・岩沢祭友会)

・十二月十日(土)

「飯能の古い話を語る会」

郷土史研究会会員が見た昭和」

語り手 清水 澄一氏

浅見 賢治氏

(当会会長・理事)

・二月十八日(土)

「飯能の古い話を語る会」

郷土史研究会会員が見た昭和
第2部」 語り手 清水 澄一氏

浅見 賢治氏

(当会会長・理事)

▽郷土はんのう発行

・三月三十一日 四十二号

▽インターネットでの交流および
情報公開について

・SNS(Facebook)に飯能郷土史
研究会のグループを作りました。興
味のある方はご参加ください。(http
s://www.facebook.com/groups/1379
46322825755)

・これまで発行した会誌「郷土は
んのう」について、飯能市博物館のご協
力も頂き全ての号(創刊号〜41号)
のデジタル化を行い、インターネット
で見られるようにしました。是非ご
覧ください。(https://ghosts.xrea.jp
/kyoudo_hanou/)



Facebook



郷土はんのう

◎令和五年度事業計画

▽総会

・四月三十日(日)

「補遺：埼玉県下で何番目？」

飯能町の上下水道施設」

講師 波田 尚大氏

(飯能市立博物館学芸員)

▽例会(詳細未定)

・六月十日(土)

※見学会を予定

・八月二十六日(土)

・十月十三日(金)

※見学会を予定

・十二月十六日(土)

・二月十七日(土)

▽郷土はんのう発行

・三月三十一日 四三号

◎新会員

前島 宏之氏(仲町)

茂木 章氏(栄町)

編集後記

今年度は、改めて飯能
市内に目を向けよう、古い話を掘
り起こして伝えていこう、と方針
を定め「飯能の古い話を語る会」
を企画しました。「語る会」は動
画でも保存しており、これを博物
館に収める予定もあります。今回
は旧飯能地区の話題でしたが、今
後は別の地域を中心とした会も実
施出来たらと思います。

また波田学芸員から「飯能の上
水道は県下3番目」という根拠は
不明であるという、通説を覆す論
考をいただきました。そして加藤
寛之氏には多くご教示をいただき
ました。この場を借りて改めて御
礼申し上げます。(関根)

郷土はんのう 第四十二号

発行日 令和五年三月三十一日

発行所 飯能郷土史研究会

〒350-0227 埼玉県坂戸市仲町一―二五

電話 〇四九―二八一―一四四〇

印刷所 大野亮弘

印刷所 ブリントバック